

X I-16 クリプトスポリジウム症

1 概要

クリプトスポリジウム (*Cryptosporidium*) は下痢症の原因となる腸管寄生虫で、汚染された食物や水の摂取、動物などから糞口感染する。HIV/AIDS 患者などの免疫不全者で下痢症を起こす他、水系汚染や食品を介した集団感染も報告されている。

2 臨床症状

下痢、腹痛、悪心などの消化器症状が主症状で、軽度の発熱を伴うこともある。潜伏期間は 3~10 日で症状は数日から 2~3 週間持続し自然治癒する。HIV/AIDS 患者など免疫不全者宿主では重症下痢症を発症させ、致死的になる場合もある。

3 診断

クリプトスポリジウム症は、検便（遠心沈殿法やシヨ糖浮遊法）でオーシストを検出して診断する。

4 治療

補液などの対症療法が中心となり、有効性が確立された治療薬はない。

5 院内感染対策

標準予防策を徹底する。

周囲を汚染する可能性のある患者には、標準予防策に加えて接触感染予防策が必要である。

感染源となるオーシストは手指や器具の消毒に使用される消毒薬の通常の濃度では死滅しない。汚物で汚染された衣類やリネンは熱水消毒を行う。